

自転車シミュレータを大分県交通安全協会に寄贈

～大分県杵築日出支部で寄贈式を開催、地域の自転車事故防止啓発の一助に～

一般社団法人日本損害保険協会九州支部 大分損保会(会長：木暮 賢児 あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 大分支店長)では、2月9日(金)に大分県日出町の杵築日出警察署で開催された寄贈式において、木暮大分損保会会長から大分県交通安全協会に対して自転車シミュレータを寄贈しました。大分県交通安全協会への寄贈は昨年度に続き5台目となります。

当日は、大分県交通安全協会 三浦 正臣 杵築日出支部長や副支部長の方々のほか、来賓として大分県警察 赤峰 杵築日出警察署長等にご参加いただき、寄贈式が開催されました。

出席者の紹介に続き、挨拶に立った木暮大分損保会会長からは、「自転車が事故の被害者になる場合も含めて、自転車事故の防止は喫緊の課題。ご高齢の方が自転車を利用される場面も一般的になる中で、高齢者交通事故防止につきましても大変重要な課題。是非とも、貴協会のご協力を賜りますようお願いしたい。」旨、挨拶につづき、三浦支部長にシミュレータの目録を贈呈しました。

続いて、大分県交通安全協会三浦支部長から「大分県で1台のシミュレータ寄贈にもかかわらず、当支部に寄贈いただき大変光栄。今回、寄贈いただいたシミュレータは仮想体験ができることから子供から高齢者、さらには企業の皆様方にも交通安全の意識の高揚を図っていきたい。」旨のご挨拶があり、ご臨席の赤峰 杵築日出警察署長からもご挨拶があり、大分交通安全協会から当協会に対して感謝状をいただきました。

また、その後、安全協会職員の方から機能説明があり「自転車運転者は、日ごろ自分がどのように運転しているのか、過信運転や危険な場所に十分注意がはらわれているのかわからない。シミュレータの再生機能により、俯瞰的に確認できることは安全教育上、大変助かる。」との発言をいただきました。

日本損害保険協会では、強制保険である自賠責保険の運用益の一部を活用し、自動車事故の被害者保護や自動車事故の防止支援のための拠出事業を行っています。免許制度がなく気軽に乗れる自転車について、安全利用や交通ルールを実践的に習得いただくために、全日本交通安全協会を通じ、2023年度は大分県を含め10道県の交通安全協会に対して自動車事故防止対策の一環としてシミュレータを寄贈しており、これまでの累計では全国に117台が配備され、ご活用いただいております。



目録寄贈(左・三浦支部長/右・木暮会長)



寄贈式の参加者



試乗する安全協会役員と指導する職員